

単元名 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう
教材「やまなし」 資料「イーハトーヴの夢」

1 単元について

【単元観】

本教材は、小学校学習指導要領C読むこと(1)オ「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。」を重点目標としている。

本教材は、かにの兄弟の様子、かわせみややまなし、情景描写など、「五月」と「十二月」を対比することで、「生と死」「奪われるものと与えるもの」などの世界観を読み取ることができる文学的文章である。作者の幻灯を表したものであることや、作者による造語、比喩表現、擬音語、擬声語が数多く使用されていることから、初見で文章の内容を理解することは難しい教材である。しかし、これまでの小学校生活で学習してきた「読むこと」の力を活用して読み進めることで作者である宮沢賢治の生き方や考え方に迫ることができる教材であると言える。

また、補助資料として「イーハトーヴの夢」がある。広い知識と理想をもつ宮沢賢治の生き方や考え方をすることができる資料である。本資料と「やまなし」を合わせて学習することで宮沢賢治の考え方と重ねて読むことができると考える。

【児童観】

本学年の児童は、昨年度1月に実施した標準学力調査で、国語科の正答率が80.8%（全国平均正答率74.5%）、今年度8月に実施した全国学力調査で、国語科の自校採点の正答率が80.2%（令和元年度全国平均正答率63.8%）と高く、国語科の学習内容は定着していると言える。一方で、標準学力調査において「登場人物の心情を読み取ることができる」の設問で正答率が64.1%（全国正答率73.7%）、全国学力調査において「複数の叙述を関係付け、登場人物の心情について自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」の設問で正答率が65.1%となっており、読むことの領域、特に物語の内容を読み取ること課題があることが分かる。

【指導観】

本単元の指導に当たっては、作者が作品に込めた思いを考える力や叙述を基に登場人物の心情を読み取る力を育てる。

まず、「やまなし」の学習の前に、第5学年の時に学習している「注文の多い料理店」「雨ニモマケズ」の主題を確認する時間や、補助資料である「イーハトーヴの夢」を読む時間を設ける。そこで、「宮沢賢治の生き方・考え方とは」という形で作者の生き方や考え方をまとめたい。作者の考え方を先にまとめて知っておくことで、「やまなし」の主題に迫る際の手がかりになると考える。

次に、「やまなし」の学習では、①「五月」「十二月」のそれぞれに描かれている世界観を捉える時間、②「五月」と「十二月」の世界観を対比しながら主題に迫る時間に分けて行う。初見では文章の内容を理解することが難しいので、段階的に読み進めていくことで主題に迫る準備を行う。①では、時・場所・登場人物・出来事を確認することで話の流れがつかめることや筆者らしい表現（色彩語・オノマトペ）を見ることで作品の世界観がつかめることを確認する。②では、①でつかんだ世界観を参考にしてそれぞれの場面にタイトルを付けることで「五月」と「十二月」を対比する。宮沢賢治の理想が表れているのはどちらか や どこに理想が表れているのかを考えたり、もう一方の世界に表されているものを考えたりすることで作品に込められた思いに気付くようにする。その際に、先に書いた「宮沢賢治とは」を関連させて考えていきたい。

2 単元の目標

- 比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができる。【知識及び技能 (1)ク】
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすることができる。【思考力，判断力，表現力等 C(1)エ】
- 文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめることができる。【思考力，判断力，表現力等 C(1)オ】
- 表現や構成等に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み，学習の見通しをもって自分の考えを書くことができる。【学びに向かう力，人間性等】

3 単元の評価規準

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	主体的に学習に取り組む態度
比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。 文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめている。	表現や構成等に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み，学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。

4 付けたい資質・能力

主体性	「五月」と「十二月」の対比を通して，情景描写や登場人物の言動から作品世界を捉え，作者の世界観を読み取る力を付け，進んで読書活動に取り組むことができる。
コミュニケーション能力	叙述をもとに，作者の世界観を読み取る活動を通して，他者との共通点や相違点に目を向け，友達と伝え合うことで，考えを深めることができる。
メタ認知	学習活動を振り返り，自分の考えをまとめる力が付いたこと，友達と話し合うことで，自分の考えを広げたり深めたりする力が付いたことを客観的に振り返り，国語科や総合的な学習の時間など今後の学習への意欲へつなげることができる。

5 単元計画 (10 時間)

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知・技	思・判・表	態度	評価規準 (評価方法)
一	1	情報の収集 既習 (5 年時) の「注文の多い料理店」, 「雨ニモマケズ」から, 宮沢賢治の生き方・考え方について考え, 学習の見通しをもつ。	○			・作品から読み取れる, 宮沢賢治の生き方・考え方について考えようとしている。【思・判・表】(ワークシート, 行動観察)
	2	情報の収集 補助資料「イーハトーヴの夢」を読んで, 宮沢賢治の生き方・考え方を考え, 短い文にまとめる。		○		・宮沢賢治の生き方・考え方について, 短い文にまとめている。【思・判・表】(ノート・ワークシート)
二	3	課題の設定 「やまなし」を読み, 初発の感想や疑問に感じた点を書く。			○	・やまなしを読み, 初発の感想や疑問に感じた点を書いている。【態度】(ノート)
	4	整理・分析 ・「やまなし」の五月を読み, 内容を把握する。 ・「文学作品を読む時のポイント」をまとめる。	○			・「やまなし」の五月を読み, 内容を把握している。【知・技】(ノート)
	5	整理・分析 ・色彩語や比喻表現を見つけ, その言葉から感じ取れることをまとめる。 ・「文学作品を読む時のポイント」をまとめる。	○			・色彩語や比喻表現を見つけ, その言葉から感じたことを書いている。【知・技】(ワークシート)
	6	整理・分析 ・「文学作品を読むときのポイント」を使いながら, 十二月の内容を把握する。	○	○		・既習を使いながら十二月の内容を把握している。【思・判・表】(ノート・ワークシート)
	7 本時	まとめ・創造・表現 ・五月と十二月にタイトルを付け, 宮沢賢治はどちらの世界が良いと思っているか考える。 ・十二月に描かれているもののよさを考える。 ・五月に描かれているもののよさを考える。 ・宮沢賢治が「やまなし」に込めた思いをまとめる。		○		・対比しながら読むことで作者が「やまなし」に込めた思いを考えている【思・判・表】(ノート)
三	8 ・ 9	振り返り ・学習した「文学作品を読む時のポイント」を使いながら宮沢賢治の他の作品を読		○	○	・既習事項を使いながら宮沢賢治の他の作品を読み, 作者が作品に込め

	10	む。 ・宮沢賢治が作品に込めた思 いをそれぞれの作品でまと める。				た思いを考えている。 【知・技】(評価カード)
--	----	--	--	--	--	----------------------------

6 本時の学習

(1) 本時の目標

五月と十二月を対比することで、作者が作品に込めた思いについて気づき、まとめることができる。 【読むことオ】

(2) 観点別評価規準

作者が作品に込めた思いに気づき、ワークシートに書いている。 【読むことオ】

(3) 準備物

五月と十二月の様子を表した絵，フィッシュボーン図

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項（・） 「◆努力を要する」状況と判断した 児童への指導の手立て	評価規準（○） （評価方法）
導入	1 既習事項を振り返る。	・前時までに表している，五月と十二月の様子を表した絵を基に，それぞれの場面の様子を振り返る。	
	めあて 二つの場面にタイトルを付け，そこから宮沢賢治が伝えたかったこととは何か自分の言葉でまとめよう。		
展開	2 「五月」「十二月」にタイトルを付ける。	・読み取りの時間に感じたことを思考の手助けとするために，五月・十二月それぞれの読み取りの時間のノートを参考にするように声をかける。 ・二つの世界を対比的に捉えられるように，板書では，五月と十二月を分けて書く。	
	3 十二月の中に表れている宮沢賢治の理想を本文から探す。	・宮沢賢治の理想の世界はどちらか聞く。 ・十二月の中で宮沢賢治の理想が表れている部分とそこが理想だと思った理由をノートに記述するよう指示をする。 ◆「何がどうしている所。理由は」という型を示すことで，書き出し方に困っている児童が書き出せるようにする。 ・宮沢賢治は十二月の世界を伝えたかったのだと意見が偏ってきたところで，「宮沢賢治が十二月だけでなく，五月も描いたのはなぜか」と問うことで，宮沢賢治が作品全体に込めた思いに気付けるようにする。	

まとめ	4 宮沢賢治が「やまなし」に込めた思いを考え、フィッシュボーン図に自分の言葉でまとめる。	・フィッシュボーン図に書いてある、他作品に関する記述と、やまなしに関する記述を関連させている児童がいる場合は、全体に共有する。	○作者が作品に込めた思いに気づき、フィッシュボーン図に書いている。(ワークシート)
	5 振り返りをする。	<p>☆目指す児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮沢賢治が五月と十二月に表したことを考えることで、「やまなし」を通して、生きている命を奪うような厳しい現実はあるけれど、周りに良い影響を与えるような人になりたいという自分の理想を伝えたかと思った。様々な作品に表すほどの理想を持っている宮沢賢治はすごい人だと思った。私にとっての理想の生き方とは何か、考えたい。 宮沢賢治にとって、十二月が理想の世界なのだと思った。命が終わっても、周りに優しい影響を与える人が宮沢賢治の理想の人なのだと思った。 	

(5) 板書計画

